

# 会報

2012 ▶ 2013  
WEEKLY REPORT



奉仕を通じて  
**平和を**

田中作次

2012-13年度  
国際ロータリー会長

留萌  
ロータリークラブ  
会長目標

ロータリーを楽しく・  
学び・奉仕しよう

会長／山本讓二 幹事／森 幹雄

## プログラム

- 本日
 

年忘れ家族例会	配偶者誕生日 12月16日 森 裕子 12月17日 渡部久美子	結婚記念日 12月12日 山本 讓二
---------	---------------------------------------	-----------------------
- 次週予定  
バツ例会

No. 2539

第23回 12月12日

出席報告

前例会

会員総数	43名
出免会員	10名
出免出席	6名
基準会員出席	26名
出席率	66.66%

前々々

第20回 11月21日

欠席会員	12名
内メイクアップ	5名
修正出席率	82.05%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F

## 🖋️ 会長報告 .....

- 11月29日(木)に第6回定例理事役員会を開催し、次の事項を決定致しました。
  - ①年忘れ家族会の実施計画並びに予算案。
  - ②11月末現在の会計報告。
  - ③12月19日バツ例会での社会奉仕委員会による粗食例会の実施。
- 昨日12月4日、留萌みなとライオンズクラブ主催のクリスマスパーティーに参加してきました。
- 留萌ライオンズクラブより、12月20日開催のクリスマスパーティーの案内を頂きました。
- 来年1月12日、留萌青年会議所新春の集いの案内を頂きました。

## 👤 幹事報告 .....

- ・芦別RC、赤平RC、滝川RCより会報を受領しました。
- ・深川RCより会報と例会案内を受領しました。
- ・2011～2012年度一般社団法人ロータリーの友事務所より決算概要を受領しました。回覧致します。

## 📄 3分間情報 .....

会員研修委員会 高田副委員長  
 「2012年国際協議会講演集」続き  
 「奉仕を通じて平和を」田中RI会長エレクト  
 どのような意味でこの言葉を使うにしても、  
 ロータリーでそれを実現することが出来ます。  
 ロータリーは、保健、衛生、食料、教育などの

人々の基本的なニーズに、最も必要とされている地域で応えることができます。

そして、友情、つながり、思いやりと言った私たちの心のニーズにも応えることができます。さらに、国や民族間の友情と寛容を推進することで、ロータリーは最も伝統的な意味での平和を、つまり、お互いを理解し合う後押しをしてくれるのです。

ロータリーの奉仕を通じて、私たちは、大きな問題に見える事でも、力を合わせれば、すぐに解決できる事を学びます。自分と違った境遇の人々と知り合うことで、人はみな同じであると理解できます。ロータリーの奉仕を通じて、私たちは、何かを達成しようとするなら、対立より協力を選ぶのが得策である事を知ります。ほかの人の長所、短所、両方を尊重することを理解します。そしてどんな人からも必ず得る物があり、教えられる物がある事を学びます。

私は、「超我の奉仕」は単なる標語ではないと考えております。それは、誰の人生をも、さらに豊かで、有意義なものにする、生き方を示していると思います。ロータリアンは、自分よりも他の人のニーズを重視します。自分のためだけでなく、社会全体のためを考えます。「超我の奉仕」という言葉は、人生で本当に大切なこと、エネルギーを注ぐべき事は何なのかを、私たちに教えてくれる言葉です。そうする事でより平和な世界の基盤を築くことが出来ると考えます。

そこで私は、2012～2013年度のロータリーのテーマを「奉仕を通じて平和を」と致しました。

それは、「平和」をどのように定義するにしても、私たちは奉仕を通じて、平和をもっと現実に近づける事が出来るからです。

また、「超我の奉仕」は、人はみな自分だけでは生きていけないことを教えてくれます。人と関わりない人生は、空しく、つまらないものですが、家族、地域社会、そして人類全体における自分の役割を常に意識して、つまり、人のために生きる事で、この世界における自分の役割がはっきりと見えてくるのです。

私の世代は、戦後日本で育った最初の世代で

した。ですから、私達がそれほど平和を重視するのは当たり前かもしれません。日本で軍国主義の台頭の結果を経験した私たちの世代は、自分たちの考え方を換え、平和を選ぶ大きな決断をし、その結果、目覚ましい発展を目にしました。

この決断があつてこそ、日本は成長と繁栄を遂げる事が出来たと思います。これによって、次世代の子供たちが安全な暮らしを送り、教育を受け、暮らしを向上させる事が出来たのです。この決断は、日本人の世界に対する見方と、自国に対する見方を根本的に変えました。日本人は心を開き、寛容を学び、もっと深く世界を理解するようになりました。

### 【三二情報】

北海道立総合研究機構「北方建築総合研究所」リフォームマニュアルガイドブックより抜粋して、合理的な性能改修によるコストダウンについての説明。



### ニコニコBOX .....

- ・次年度理事に指名されました 年次総会欠席しました すみません 堀会員
- ・麻雀大会1位 私が強いではありません 弱い人ばかりが相手ですので 大嶋会員

前 回 346,000円

今 回 2,000円

累 計 348,000円



### プログラム .....

「今冬の電力需給対策への取り組みについて」

北海道電力(株)留萌営業所

所長 原谷修次郎様

今夏に引き続き、気候の厳しい冬に7%以上の節電をお願いすることになり、ご迷惑とご負担をおかけいたしますが、ご理解・ご協



力をお願いします。

発電設備につきましては、これまでフル稼働していた火力・水力発電所の点検・補修を、この時期に集中して実施しております。引き続きできる限りの節電にご協力をお願いいたします。

なお、説明の中に137万kWなどという比較的大きな数字で紹介しますが、一般の方には分かりにくいと思いますので、少し解説をいたします。

例えば、留萌市の一時間あたりの消費電力は15000kW～17000kW程度です。ドライヤーの台数に換算すると、15000台～17000台が一斉に使用されたと同じ状況です。100Wの裸電球であれば、15万個～17万個となります。

ちなみに、新幹線N700系(16両編成)が270kmのスピードで走行すると、1個305kWのモーター56コで17080kWの消費電力です。留萌市と同じくらいの電力が新幹線には必要となります。いかに電力を消費しているかということです。

でんきの雑学に続き、本題の「今冬の電力需給対策について」ご説明いたします。

弊社は、今冬に向けて電力需給対策に最大限取り組んだ結果、最も厳しい需給状況となる2月の供給予備力は33万kW、供給予備率5.8%となり、時々刻々と変動する電力需要に対して最低限必要な予備率3%は確保できる見通しとなりました。しかしながら、この予備率5.8%という数字は、発電設備が全て運転していることを前提としたものであり、年間を通じて発生している発電設備の計画外停止や出力抑制をリスクとして考慮する必要があります。

電力需給の多重的対策について説明いたします。仮に過去最大級(過去15年間で最大の電源脱落は137万kW)またはそれを上回る電源脱落が発生する場合にも、計画停電を含む停電に至るリスクを回避するため多重的な対策を施し、需給対策に万全を尽くします。

供給力の確保についてですが、今年の7月31日に需給状況をお知らせした以降、緊急設置電源の追加導入、自家発電余剰電力の拡大や火力発電設備の増出力運転により、供給力の上積みを行

ない現時点で596万kWを確保いたしました。

発電設備における冬季対策について説明いたします。今冬における発電設備のトラブル発生防止に向けた、火力発電所・水力発電所の最低限の点検・補修作業を11月末までに完了いたしました。

また、巡回点検の強化等により異常の兆候を早期に発見し、長期間にわたるトラブル発生の未然防止に努めています。

なお、事故発生時に備えた復旧資機材の配置により早期復旧に努めます。

流通設備における冬季対策としては、火力発電所に連系する重要送電線などについて、設備パトロールの強化により、事故の未然防止を図ります。また、事故発生時に備え、復旧資機材(がいし、電線、仮復旧機材など)の配置、および夜間・休日を含む施工業界の協力体制を確保することにより早期復旧に努めます。

北本連携設備についてですが、北海道は、小容量(60万kW)の北本連系設備のみの1点連系です。電力他社は、複数あるいは大容量の連系線につながっています。また、受電容量の余力の必要性について説明いたします。仮に北本連系設備で60万kW受電している場合に、道内の電源が脱落すると本州側からの追加受電ができず道内の電力供給力が不足し、周波数低下や不測の停電が発生します。

このような状況を避けるため、平常時には北本連系設備の容量を一定量空けておく必要があります。

北本連系設備の脱落リスクの極小化について説明いたします。現在布設している3本の海底ケーブルの1本に故障が発生した場合、送電容量は30万kWに半減しますが、故障したケーブルを今回布設した新設ケーブルに切り替えることで60万kWの復旧が可能となります。(本年12月上旬より使用可能)

数値を伴う節電のお願いについて説明いたします。節電をお願いする期間は平成24年12月10日～平成25年3月8日までとなっております。

なお、病院や鉄道などのライフライン機能の維持に支障が出る場合については、機能維持へ

## 第22回 12月5日(水) 天候/雪

の支障が生じない範囲で自主的な目標を設定し、節電をお願いいたします。

また、電源脱落がない平時においては、生産活動等について、実質的な影響が生じない範囲で自主的な目標を設定し、節電をお願いいたします。乳幼児やご高齢の方、お体の不自由な方などがいらっしゃるご家庭については、無理な節電で体調を崩されることがないように、特にご注意ください。

具体的な節電方法について説明します。冬季においては、融雪・暖房機器の稼働が一日を通じて高まるため、電力需要は夏季より大きくなり、かつ、高い水準で一日中継続します。

また、夏季と比較した場合、最大電力では15%、電力量では25%程度の増加となります。特に、電力量では家庭用が夏季より60%程度増加するとともに、ロードヒーティングやルーフヒーティングの使用もあり、需要が増加します。

ご家庭のお客さまにお願いする節電の方法について説明します。具体的な節電方法を掲載したチラシを各ご家庭にお届けします。また、「節電のお願い」のパンフレットをご用意していますので、節電ダイヤル(0120-009-428)または各事業所にお問い合わせください。(当社ホームページでもご覧いただけます。)

パンフレットに記載の節電方法のうち、テレビ・照明・冷蔵庫の対策を実施すると13%程度の節電になります。

計画停電回避緊急調整プログラムについて説明します。今冬において、複数の大規模電源が脱落し、考える全ての需給対策を講じても、なお予備率1%以下となるような需給ひっ迫となる稀頻度の事態が想定される場合、人命に関わる停電に至るリスクを回避するため、生産・経済活動の一時停止や臨時休業等により速やかに需要を抑制いただき、そのご協力に対して料金を割り引きさせていただく契約メニューです。全道で対象のお客さま(約900社、約1,200件)全数を訪問し、ご加入をお願いしてまいります。まとめとして、ご説明のポイントを確認の意味も含めお話いたします。

- 当社は、今冬に向けて電力需給対策に最大限取り組んだ結果、最も厳しい需給状況となる2月の供給予備力は33万kW、供給予備率5.8%となり、時々刻々と変動する電力需要に対し、最低限必要な予備率3%を確保できる見通しとなりました。しかしながら、この予備率5.8%という数字は、発電設備がすべて運転していることを前提としております。
- 当社は、積雪・寒冷な冬の北海道において電力不足は社会生活などに甚大な影響を及ぼすことから、北海道は他社からの電力融通に制限があること、北本連系設備や主要発電設備等の脱落リスクがあることを考慮する必要があると考えており、国の需給検証委員会の場でもこれらのリスクを踏まえる必要があると判断されました。
- 11月2日に、国の電力需給に関する検討会合・エネルギー・環境会議合同会合におきまして、計画停電を含む非常事態を最大限回避するための需給対策がまとめられました。
- 当社としても、計画停電回避緊急調整プログラムの33万kW以上の確保を目標に、冬に向け国から示された需給対策の達成に向けて、国や北海道と連携して最大限の努力で取り組んでまいります。
- お客さまには、大変なご不便とご迷惑をおかけいたしますが、今冬に備えるために、今夏と同様、2010年度と比較して7%以上の節電へのご協力をお願いいたします。
- 当社は、今後も供給力の確保に向けて、設備保全やパトロール強化に努めるとともに需給調整契約の拡大など、可能な限りの需給対策に取り組んでまいります。

これで北海道電力からの、今冬の電力需給対策についてのご説明を終わります。ご清聴いただきありがとうございます。